「創造・改革・挑戦」を信念に、社会とともに成長する企業を目指します

大栄環境株式会社
代表取締役社長
下田 守彦

経歴

1999年05月	大栄環境株式会社入社
2013年11月	近江八幡エコサービス株式会社代表取締役
2015年01月	株式会社グリーンアローズホールディングス取締役（現任）
2016年09月	当社執行役員社長室長
2018年06月	公益社団法人大阪府産業廃棄物協会（現：公益社団法人大阪府産業資源循環協会）理事（現任）
2021年06月	株式会社大栄環境総研代表取締役
2023年04月	当社執行役員総合政策本部長
2024年10月	相生エコサービス株式会社代表取締役
2025年04月	肥前環境株式会社取締役
2025年06月	一般社団法人 SusPla 理事（現任）
2025年11月	株式会社スカラベサクレ取締役
2026年04月	当社副社長執行役員
2026年06月	当社代表取締役社長執行役員（現任）

一問一答

大切にしている価値観は？
自分の目で見て確かめること

好きな言葉は？
素直

嬉しかった言葉は？
「大栄環境がきてくれてよかった」と言っていただけたこと

好きな食べものは？
和食全般。特に茄子、青魚

趣味は？
温泉旅行

現場を見て対話を重ねながら信頼を土台に経営に臨む

2026年6月に代表取締役社長に就任しました下田です。グループ全体を率いる重責への不安よりも、業界の在り方が大きく変わっていくこの時期に、業界の先頭に立って挑戦できることへの期待を大きく感じています。

創造・改革・挑戦の信念のもと、廃棄物処理・資源循環の在り方を変え、創業者精神を次の世代へつないでいくという責務を強い決意を持って果たしていきます。

グループ各部門の現状をあらためて自ら確認するべく、現場での対話をはじめた矢先の2026年7月9日、労働災害により、従業員の尊い命が失われました。代表取締役社長として、その責任を重く受け止めております。

事故に潜む根本的な原因を究明し、全事業所において、現場の声に基づいた実効性のある再発防止体制を構築し、時が経っても風化することのない、安全を最優先にする社風を築いてまいります。

「未来は、信頼から生まれる。」を形にするため、ステークホルダーの皆さまからの信頼を再び積み上げていくことに、全身全霊を捧げる決意です。

中期経営計画の手応えをもとに重要戦略を着実に進める

中期経営計画「D-Plan 2028」には、策定段階から深く関わってきました。3年計画の初年度に、大型案件となった（株）スカラベサクレを含む6件のM&Aを実行したことにより、最終年度の目標達成が見え始めています。市場からの期待にも、着実に応えていきます。

当社が見据えるのは、一般廃棄物と産業廃棄物の一体的処理を進め、全国各エリアで、収集運搬から最終処分までを一貫して担えるグループの体制を構築することです。既存拠点での施設の新増設とともに、公民連携やM&Aなどにより新たな拠点をつくり、業界の集約化を積極的に進めていきます。

自治体の皆さまから、これからの時代は一般廃棄物と産業廃棄物の一体的処理が当然、と認知されるかは、公民連携による施設整備が加速度的に進展するかどうか次第だと考えています。

公民連携の第1号案件となる「相生地域エネルギーセンター」は、2026年8月に兵庫県相生市で着工します。建設が進むにつれて自治体からの注目度はますます高まっていくはずです。人口減少と建設費高騰により財源不足が深刻化する自治体において、廃棄物処理コスト抑制に非常に有効であり、地域活性化にもつながる新たなモデルになるという理解が進めば、この方式が一気に全国に広がり、廃棄物処理の在り方が変わっていきます。

また、2050年のカーボンニュートラルに貢献していくには、動脈企業との連携により、私たちが取り扱う循環資源、特に廃プラスチックから再生原料を供給していく体制の構築も重要となります。品質・物量・経済性を満たした、持続可能なスキームを確立し、資源循環の在り方も変えていきたいと考えています。

人財の力を組織力につなげ新たな価値を社会へ

私はこれまで、当社グループの拠点でさまざまな業務を経験してきました。その中で、社内外の人脈が広がり、モチベーションや視座も高まりました。異なる環境に身を置く経験は、人財の成長に重要だと考え、グループ横断で双方向のジョブローテーションを積極的に進めていきます。

組織が拡大するほど、社内コミュニケーションや創業者精神の継承は重要性が増すため、当社が大切にしてきた考え方をグループ全体にしっかり伝えていく必要があります。特に、新卒やキャリア採用、M&Aにより新たに加わる仲間には、より丁寧な説明が求められます。従業員一人ひとりの愛社精神を醸成し、グループの一体感を高め、「大栄環境グループの一員でよかった」と誇りとやりがいを持って成長してもらえる環境づくりに、継続して取り組んでいきます。誰もが意見を出しやすい環境をつくることは、持続的な成長への原動力となります。人財の力を最大化させ、組織全体の力へとつなげていきます。

上場して3年半余りが経過し、当社グループに対する期待は年々高まっていると感じています。求められる役割も今後ますます大きくなっていくはずです。ステークホルダーの皆さまとの関係をより発展させていくためには、次世代を託されたメンバーがそれぞれ先頭に立って、直接の対話を深めていく必要があります。

地域とともに発展する企業であり続けるその先に、社会にどのような価値を提供できるのか。それを常に問いながら、廃棄物処理・資源循環の在り方を変える施策について、スピード感を持って進めていきます。あゆみを止めることなく、ステークホルダーの皆さまとともに成長し続ける企業を目指します。